

クラス番号	628	担当教員名	佐々木 将芳
テーマ	障害をもつ子どもやおとなに対する個別援助実践と地域生活		
著書・論文	著書	共著	2007年8月 全障研出版部 2007年12月 全障研出版部 2009年7月 かもがわ出版 2010年2月 旬報社
研究課題等	研究課題：①障害をもつ学齢期の子どもの放課後・学校外での生活支援 ②障害をもつ乳幼児への「発達」と「家族」の視点に立った療育支援 ③障害児・者福祉制度に対する「権利の視点」からの課題分析		

ゼミナール概要

キーワード：障害 子ども 地域生活 療育 保育 家族支援 福祉実践者

【目的】

障害をもつ人（子ども、おとな）の生活を支える福祉制度は、近年目まぐるしく変化を遂げています。2003年には、旧来の措置制度が利用契約（支援費）制度へと変わりました。また2008年には「人間らしい」生活を送るために自己負担を支払うという障害者自立支援法が成立しました。そして、障害をもつ子どもに対する支援では、障害者自立支援法と同じ年から、施設を利用する場合に利用契約を結び、費用の1割を自己負担するという、大人と同じ仕組みが導入されています。さらに、学齢期の障害をもつ子どもについていえば、教育はほぼ全ての子どもに保障されるようになりましたが、学校外での生活（遊びや社会参加）については、十分にそのニーズに応えられる状況ではありません。障害のある、なしに関わらず人々の生活そのものが経済、社会状況に大きく左右される中、人間らしい「当たり前」の生活とは何か、イメージをしてみてください。

このゼミでは、「その人個人だけの力」では十分に生活上のニーズに対応することが難しい状態とは何かを理解し、そのような状況にある人（子どもやおとなと、その家族）へ、どのような支援が必要かを考えます。

【学習目標】

- 3年次：「障害」や「子ども」に関する支援実践や制度について、文献購読を行います。各自分担して資料を作成し発表することで、今日における障害児・者の福祉、制度の問題について理解を進めます。また、発表作業を通して卒業論文にむけた、論文作成に必要な技術、作法を学びます。
- 4年次：卒業論文作成に向けた問題意識の設定や、研究課題を設定します。そして、必要な資料収集や、資料の整理ができる様になります。また、必要な調査、聞き取りを実施することで、卒業論文を完成させます。

【方法・計画】

- 3年次前期：文献購読を通して、文章を読み解く力と発表する力を身につけます。具体的には発表資料を作る作業を通して、文献の要約精度や問題設定の適切さを磨きます。
- 後期：ソーシャルワーク実習や夏休み中のボランティア活動など、現場に触れた経験を通して、自分の問題意識を明確にしていく時期です。ゼミ生の興味関心に応じたグループ学習やフィールドワークも検討します。また、希望があれば4年次に向けた春休みなどに見学旅行やゼミ合宿も行います。
- 4年次：3年次のゼミを通して、自らの興味、関心を向けた分野・領域での卒業論文作成に入ります。
- 前期では、文献学習や、資料収集とその内容発表を中心に行います。
- 後期は、実際の卒論の構成に沿った（章、節割り）経過発表を進めます。その中で、自分だけで卒論を完成させるのではなく、仲間との共同作業の結果としての卒論を目指します。

担当教員からのメッセージ

私は大学院修了から8年目になります（まだまだ若いと思っていましたが、皆さんとの年齢差がひと回り違ってきました）。大学院在籍中から今までの8年間、障害児通園施設の発達相談や、保育所での巡回相談を行ってきました。この地域ではまだまだメジャーな仕事ではありませんが、子どもの発達や家族の生活支援にはとても重要な役割だと感じています。また、地域で保護者や関係者とともに、学齢期の障害児を支援する事業所も何か所かで運営しています。乳幼児期から学齢期へ、福祉から教育への移行と支援の継続性、そして、ともに子どもの変化を感じ、喜び合える、変わらないキーパーソンの必要性を実感しています。また、「ことば」を道具として、やりとりを紡ごうとする1歳6ヶ月を過ぎた娘の父親でもあります。「おとな」であれ「子ども」であれ「人」としての「尊厳」を尊重できることが実践者として必要な最低限の力だと思います。SWや保育、教育の現場に将来を夢見る皆さんと一緒に、障害をもつことの意味や支援の内容を考えていくことを楽しみにしています。